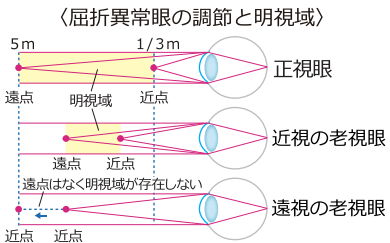


ドクトル伊田の屈折異常でメガネをかける？ かけない？

屈折異常は近視、遠視、乱視があり、老視が加わると眼精疲労と密接に関連します。裸眼視力がよくても、知らず知らずのうちにもものを見るのに努力していれば、目が疲れて集中力や注意力、細かい思考力が持続しません。裸眼視力で日常生活にあまり困らない程度の遠視や近視では、メガネを使わない人が多いです。しかし、老視年齢になると眼精疲労を発症する機会が多くなります。

ものをはっきり見える範囲を明視域と呼び、遠点と近点から成ります(図)。明視域では、ピン



トを合わすため調節を行います。調節が低下し、明視域が狭まります。遠視の老視眼では、近点が遠くなり、遠点はなくなり、遠視の老視眼は遠点が近くなり、近点と変わらなくなります。日常生活を行う手元

1-3mから半径5m程度の実空間では、遠視の老視には明視域が存在せず、近視の老視は、ほぼ近点しかピントが合いません。どちらも裸眼ではものをみるのに調節努力が必要で、眼精疲労を発症します。

実際の視覚は、調節が不十分でも対象物をあいまいに認識することができ、なかなか調節努力をしていることに気がつきません。ITの普及に伴う目の酷使で、若くして老視になる人が増えています。屈折異常があれば、メガネやコンタクトレンズによる眼精疲労対策をしてください。(院長・伊田 宣史)



伊田眼科クリニック

- ・眼科一般
- ・日帰り手術
- ・コンタクトレンズ取り扱い

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:30	○	○	○	○	○	○	△
12:30	○	○	○	○	○	○	△
15:30	○	手術	○	○	○	○	△
18:30							

【休診日】木・土曜午後
日曜、祝日
TEL 079-556-8600

